

日赤あおもり

No.
409
2023.合併号

 **青森県支部**
日本赤十字社

日本赤十字社青森県支部 〒030-0861 青森市長島1丁目3番1号 TEL 017-722-2011 <https://www.jrc.or.jp/chapter/aomori/>

特集

能登半島地震、日赤の活動 被災地へ希望を届ける



活動前のミーティングを行う青森県支部救護班

青森県支部の防災・減災への主な取り組み

令和5年度 奉仕団合同防災研修会

ACTION! BOUSAI キャンプフェス 2023

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

青森県支部からのお知らせ

令和6年度 赤十字会員増強・活動資金増収運動 実施中!
赤十字会員への加入、会費・寄付金へのご協力をお願いします。

青森県内の赤十字関連の情報を中心に発信していきます。
赤十字の輪を広げるために、皆さんフォローをお願いします!



<https://twitter.com/nissekiaomori>
<https://www.facebook.com/nissekiaomori>
https://www.instagram.com/nisseki_aomori/



Facebook



Instagram



被災地へ希望を届ける ～能登半島地震、日赤の活動～

令和6年1月1日に発生した能登地方を震源とする地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。多くの人々が日常を奪われ避難生活を送る中、日赤は発災直後から救護班の派遣や救援物資の配布など、被災地の支援に動いています。

発災翌日の1月2日から災害医療コーディネートチーム、および救護班(DMATを含む)を現地に順次派遣し、被災者に手当てや診療などの救護活動を開始。避難所や医療支援が行き届きにくい孤立した集落や施設へ向けては、巡回診療も行いました。また、多くの赤十字ボランティアの協力により、毛布や安眠セット、簡易トイレなどの救援物資を配布する活動も実施しました。



災害対策本部でのミーティングの様子



福祉避難所で被災者の声に耳を傾ける救護班



避難所の環境を整える救護班



支援者のこころのケアを行う様子

さらに、1月4日からは「令和6年能登半島地震災害義援金」の受け付け口座を開設。寄せられた義援金は被災地の方々の生活を支援するため、全額を被災地の義援金配分委員会へ送金します(事務手数料はいただいておりません)。

青森県支部においても、1月1日の発生以降、義援金の受け付けを開始するとともに、八戸赤十字病院の医師・看護

師などからなる救護班や災害医療コーディネートチームを被災地に派遣。心理的ストレスを抱える被災者や支援者を救うためのこころのケア班の派遣などを行いました。青森県支部の活動は以下のとおり。

●関係機関への職員派遣

- ・青森県庁 3名 (災害情報連絡員、情報収集) 1月1日

●救護班などの派遣

- 救護班(医師、看護師、薬剤師、事務職員など)
 - ・石川県珠洲市 1班(情報収集、避難所アセスメント) 1月7日～11日
 - ・石川県能登町 1班(避難所巡回診療、アセスメント) 1月14日～18日
 - ・石川県珠洲市 1班(避難所巡回診療) 1月28日～2月1日
 - ・石川県能登町 1班(避難所巡回診療、アセスメント) 2月7日～11日
- 災害医療コーディネートチームの派遣(医師、事務職員)
 - ・石川県穴水町保健医療福祉調整本部 1月24日～30日、1月31日～2月5日
- 医療機関支援
 - ・公立穴水総合病院 1月22日～27日
 - ・市立輪島病院 2月21日～27日、3月5日～10日
- こころのケア班(こころのケア要員)
 - ・石川県七尾市役所 1班 3月8日～14日

●義援金の受け付け

青森県支部の受付状況(3月26日現在) 672件 / 39,938,009円

職員派遣

- 救護班(DMAT含む) 延べ343班を派遣
- 日赤災害医療コーディネートチーム 延べ119チームを派遣
- こころのケア班(災害医療) 延べ35班を派遣
- 支部支援要員 68人を派遣

ボランティアの活動

- 赤十字ボランティア 延べ1,688人が活動

救援物資の配布

- 毛布 16,005枚
- 安眠セット 5,230セット
- 緊急セット 2,224セット
- その他 携帯型簡易トイレ3,400個 等

日赤の主な活動状況(3月26日現在)

地域間の連携を密に、災害への備えを再確認

～赤十字奉仕団 合同防災研修会を開催～

青森県支部は、近年、県内で2年続けて発生した大雨による災害と、そこで見てきた課題の解決に向けた取り組みとして、「赤十字奉仕団合同防災研修会」を開催しました。

同研修会は、発災時、被災した地域では奉仕団員自らも被災者であり、支援のための活動を展開することが困難であったこと。また、それをサポートするためには近隣の奉仕団との連携が重要であることが改めて見直され、地域を越えた連携強化を図るべく企画。昨年は14の地域奉仕団が参加し、県内6カ所で開催しました。

研修会では、災害の備えに関する講義や救急法の実技、グループでの防災シミュレーションゲームなどを実施。参加者からは「交流を通して、顔の見える関係性をつくることができた」、「他の奉仕団や団体の活動に刺激を受けた」などの感想が寄せられ、地域における防災・減災への思いを新たにすることができました。



講義を受ける団員



NPO法人青森県防災士会のメンバーと実技を学ぶ団員



包帯法を学ぶ団員



テント設置訓練

【参加した奉仕団】

(参加団数 14団、参加者数 258名)

11月 8日	むつ市赤十字奉仕団、むつ市大畑分区赤十字奉仕団、東通村赤十字奉仕団
11月 10日	五所川原市赤十字奉仕団、五所川原市市浦分区赤十字奉仕団
11月 14日	十和田市赤十字奉仕団、三沢市赤十字奉仕団、六戸町赤十字奉仕団
11月 16日	むつ市市川内分区奉仕団、むつ市脇野沢分区奉仕団
11月 17日	板柳町赤十字奉仕団、西目屋村赤十字奉仕団
12月 14日	七戸町赤十字奉仕団、東北町赤十字奉仕団

キャンプを通じ、様々なプログラムに挑戦!

～ACTION! BOUSAIキャンプフェスを開催～

青森県支部は、昨年9月9日から10日の2日間、「ACTION! BOUSAIキャンプフェス2023」を開催しました。

同イベントは、9月の「ACTION!防災・減災」の取り組みの一環として令和4年度に引き続き開催したもので、会場となった夜越山オートキャンプ場(平内町)には事前申し込みをした県内の家族連れなど43名が参集し、普段と一味違ったキャンプ体験を行いました。

青森県オート・キャンプ協会などの多くの関係団体の協力により開催したキャンプフェスは、県南特有のやませの影響により生憎の小雨が降る中でのスタート

となりましたが、心肺蘇生などの一次救命処置や青森地方気象台によるお天気クイズ、青森地域広域事務組合平内消防署による初期消火と防火衣の試着体験が行われたほか、高密度のポリエチレン製の袋を用いたご飯とゼリーの炊出しや薪割・火起こし、木登り体験会などのプログラムが行われました。

また、参加者には夕食に合わせてキャンプフェスに協賛いただいた平内町漁業協同組合からの「活ホタテ」が、翌日には、平内町商工会からの「はたてかりんとう」が振舞われ、地元名産の味もしっかり堪能していました。

参加者からは、「避難する際は必ずしも天候が良いとは限らない。雨天時のキャンプを通じて貴重な体験をすることができた」、「様々なプログラムを体験することができ、楽しみながら備えについて学ぶことができた」などの感想が寄せられました。



心肺蘇生を学ぶ参加者



お天気クイズに挑戦する参加者



防火衣の試着体験



水消火器を使った消火体験



粉寒天を使ったゼリー作りに挑戦する参加者



キンドリングクラッカーを使った薪割体験

レッドライトアッププロジェクト2023を実施

～むつ市内3施設が初参加～

日本赤十字社は、5月8日の「世界赤十字デー」を中心に、苦しみに寄り添う赤十字精神を伝え、自然災害や情勢不安による苦難を共に乗り越えることを願い、全国各地のランドマーク施設が赤十字のシンボルカラーに染まる「レッドライトアッププロジェクト」を行っています。

青森県内では、昨年5月8日に1日限定でレッドライトアップを実施。世界遺産白神山地にある「津軽ダム」(国土交通省 東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所 様)とヴァンラーレ八戸(J3)のホームスタジアムである八戸市多賀多目的運動場「プライフーズスタジアム」(八戸スポーツ・地域振興グループ 株式会社ヴァンラーレ八戸 様)、昨年は新たに、むつ市内3カ所(むつまエダアリーナ、北の防人大湊 海望館、大橋*)でライトアップが行われ、ダムの巨大な堤体等が赤十字のシンボルカラーに染まりました。

当日は多くの写真愛好家などが会場を訪れ、幻想的な情景をカメラに収めていました。大橋*(円通寺から田名部神社方面に向かう橋)



むつまエダアリーナ



北の防人大湊 海望館



大橋

令和5年度に新たにプロジェクトに参加したむつ市内3施設

学びを深め、日頃の活動に活かす

～県内の高校生メンバーらを対象とした研修会を開催～

青森県支部は、昨年8月3日から4日の2日間、青少年赤十字高校リーダーシップ・トレーニングプログラムを開催しました。

県内の高校生メンバー 82名が参加した研修会では「防災」をテーマに、八戸学院大学講師の井上氏による地域防災に関する講義や日本赤十字社本社の土肥主査による「自宅の『難』ってなんだろう?」と題した演習・交流など、防災・減災に関するプログラムが組み立てられ、例年以上の盛り上がりを見せていました。

また、1月5日から7日の3日間、青少年赤十字高校リーダー研修会を開催し、夏の研修会に参加した高校生メンバーを中心に27名が参加しました。

夏の研修会の内容をふまえ、事前に高校生メンバーから「防災」について興味・関心のある問題をアンケート調査し、「実際に災害を体験した人から話を聞いてみたい」という意見から、いのちをつなぐ未来館の川崎さんによる「釜石の出来事」を実施。

その他にも、「実際に避難所に来たらどのようなことをしなければならないのか知りたい」という意見に対し、

県支部職員による「ひなんじょたいけん」を実施しました。

宿泊を伴う研修会が実施されたのは4年ぶりで、参加した高校生は初めての宿泊形式の研修会に戸惑いながらも、他校の生徒と交流を楽しむ姿が見られました。



ダンボールベッドの組み立て



発表する高校生メンバー



青少年赤十字旗の意味を学ぶ高校生メンバー



避難所の運営を体験する高校生メンバー

県内 Topics

医療従事者に感謝

～ANAグループが八戸赤十字病院にスズランを贈呈～

昨年5月23日、全日空の客室乗務員が八戸赤十字病院(紺野広院長)を訪れ、「再び幸せが訪れる」という花言葉を持つスズランの切り花50本と香りつきのしおり300枚の贈呈が行われました。

スズランの贈呈は、ANAグループの社会貢献の一環として行われ、68回目の昨年は全国51カ所の赤十字病院と関連施設で実施。4年ぶりに対面で行われた贈呈式には、客室乗務員の成田安里さん(弘前市出身)が訪れ、箱石看護部長と昨年4月採用の看護師14名に「お疲れさまです」、「頑張ってください」と感謝の気持ちを伝えながら、一人ひとりに花としおりが手渡されました。

受け取った看護師からは、「できることは限られているが、患者に寄り添った看護をしたい」、「今日を励みに、日々経験を積み信頼されるような看護師を目指したい」といった思いが寄せられました。



成田さん(中央)からスズランの切り花としおりを受け取った八戸赤十字病院の看護師

地域の赤十字活動のシンボルに

～県内4地区分区に赤十字救援車「博愛号」を配置～

青森県支部では、このほど赤十字救援車「博愛号」を弘前市、黒石市、外ヶ浜町、大間町の2地区・2分区に配置しました。

赤十字救援車「博愛号」は、青森県支部の創立100周年記念事業として昭和55年にスタート。県内すべての市町村(地区・分区)へ更新を含め、これまでに247台を配置しました。平成21年度をもって事業を一時休止したものの、近年多発する自然災害などに備えるため、平成28年度から事業再開して以降、昨年度までに32台を配置しました。

「博愛号」を配置された地区・分区では、それぞれの市町長(地区長・分区長)をはじめ、赤十字関係者の出席のもとに配置式が行われ、レプリカキーが手渡されました。

博愛号等の配置事業は、令和7年度まで県内すべての市町村を対象に行われます。



令和5年度に地区・分区に配置された博愛号

安心して暮らせる、地域環境を考える

～キャップハンディ体験学習を実施～

県立はまなす医療療育センター(盛島利文園長)は、ハンディキャップを疑似体験することで、障がいのある方の日常生活における不便な点や手助けを必要とする場面などについて理解を深めることを目的に、毎年、キャップハンディ体験学習を実施しています。

昨年6月28日に実施した体験学習には、職員6名と看護実習生4名が参加しました。

入所児・者からの指導を受けながら車いすの操作体験をした参加者からは、「実際に車いすに乗ることで、扱い方や特徴、操作の難しさを感じることができた」、「周りを意識しながら、食器の配膳をするなど2つのことを同時にすることの難しさを知った」などの感想が寄せられました。

同施設では今後もこの活動を続け、入所児・者の皆さまへのより良い支援に繋げていくこととしています。



入所児から車いすの操作を学ぶ参加者



車いすを操作する参加者



記念写真に納まる櫻田市長ら弘前市地区関係者



活動資金支援者に感謝を込めて ~44個人、法人、団体を表彰~

3月26日、赤十字活動資金功労表彰伝達式をホテル青森(青森市)において、開催しました。

伝達式には、令和5年度中に青森県支部へ活動資金を寄せられた個人、法人、団体が出席し、宮下宗一郎支部長から、日本赤十字社の表彰規則に基づく金色・銀色有功章、日赤社長感謝状ならびに国の表彰となる厚生労働大臣感謝状、紺綬褒章が一人ひとりに手渡されました。受章者(個人、法人、団体)は、次のとおりです。(敬称略)

■金色有功章

[個人]

原子順子(青森市)、長尾貞子(弘前市)、小祝和子(八戸市)、長尾智恵(五所川原市)、太田正剛(七戸町) 以上5名

[法人]

田澤工業株式会社(弘前市)、学校法人小沢学園認定こども園かもめ幼稚園(八戸市)、株式会社三浦設備工業(十和田市)、株式会社鈴木建設(外ヶ浜町) 以上4社

[団体]

青桐会(青森市) 以上1団

■銀色有功章

[個人]

阿部正一(青森市)、岩城外一(青森市)、神山弘志(青森市)、近藤勝弘(弘前市)、坂本直(弘前市)、山口きい(弘前市)、宮本幸祐(外ヶ浜町)、葛西満(六ヶ所村) 以上8名

[法人]

アークコンサル株式会社(青森市)、有限会社東北ビル総合管理(八戸市)、南部シビルコンサルタンツ株式会社(十和田市)、株式会社外崎道路(板柳町)、いやさか自動車株式会社(六ヶ所村) 以上5社

■日本赤十字社社長感謝状

[個人]

小笠原英治(八戸市)、中山百合江(八戸市)、上明戸幸治(十和田市)、気田福俊(十和田市)、上平剛史(三沢市)、川畑好弘(三沢市)、角田順一(中泊町) 以上7名



宮下支部長と記念写真に納まる受章者

[法人]

一般社団法人慈恵会(青森市)、株式会社兼建興業(弘前市)、社会福祉法人伸康会(弘前市)、弘果弘前中央青果株式会社(弘前市)、穂積建設工業株式会社(八戸市)、株式会社工組(十和田市)、新成運輸株式会社(十和田市)、株式会社トリー(むつ市)、株式会社中村建設工業(東北町)、株式会社三村興業社(おいらせ町) 以上10社

■厚生労働大臣感謝状

[個人]

気田福俊(十和田市)、上平剛史(三沢市)、角田順一(中泊町) 以上3名

■紺綬褒章

[個人]

上平剛史(三沢市) 以上1名

“知る、見る” 赤十字

“世界の宝”いのちを救った手縫いの赤十字旗を県立美術館に展示

2月10日から6月23日まで青森県立美術館で、アートプロジェクト事業「美術館堆肥化計画」の総合評価を示す展示として、「美術館堆肥化宣言」のプロジェクトが開催されており、本県下北郡佐井村出身の三上剛太郎医師が日露戦争従軍時に負傷兵の命をつないだ手縫いの赤十字旗が展示されています。詳しくは、県立美術館のホームページをご覧ください。



<https://www.aomori-museum.jp/schedule/13183/>
同プロジェクトには、アニメ「ひるがえれ赤十字の旗 三上剛太郎物語」にも描かれた旅人で六十六庵主の養虫山人(みのむしさんじん)、また、ミミズ博士で有名な動物学者の畑井新喜司氏(平内町出身)に関する資料なども展示されています。ぜひ、この機会にご家族・ご友人お誘い合わせのうえ、ご来場ください。
会期:2024年2月10日(土)~6月23日(日)
会場:青森県立美術館(青森市安田近野185)

赤十字ネットワークニュース

義援金は、災害により生命・財産に大きな被害を受けた方々に対し、被災者の当面の生活を支えることを目的としています。受け付けた義援金は被災された方々に迅速かつ公平に配分されます。現在受付中の国内災害義援金と受付期間は以下のとおりです。

● 令和6年能登半島地震災害義援金
2024年12月27日(金)まで
日本赤十字社では、国内災害義援金のほかに海外救援金を受付しています。
海外救援金は、海外で大規模な災害や紛争などの緊急事態が発生した際に、被災地の赤十字社や日本赤十字社が現地で実施する救援活動・復興支援活動を支援するために役立てられます。受付中の海外救援金については、ホームページをご確認ください。
<https://www.jrc.or.jp/contribute/help/#kaigai>

献血にご協力くださる皆さまへ

献血のご協力にあたり以下の事項についてご確認くださいませよう、よろしくお願いいたします。

1 献血の条件について

採血の種類	全血採血		成分採血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
1回採血量	200mL	400mL	600mL以下(循環血液量の12%以内)	
年齢	16~69歳		18~69歳	男性:18~69歳 女性:18~54歳
	ただし、65~69歳の者については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に採血が行われた者に限る。			
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上 180mmHg未滿			
最低血圧	50mmHg以上 110mmHg未滿			
脈拍	40回/分以上 100回/分以下			
体温	37.5℃未滿			

2 献血をお受けできない基準について (一例)

- ①輸血や臓器移植を受けたことがある。
- ②3日以内の出血を伴う歯科治療や服薬(献血可能なお薬もございますので、お薬名をお知らせください。その場でお調べいたします)。※血圧、高脂血症、高尿酸値等の生活習慣病の薬は問題ございませんが、体調等を含め、当日の健診医が判断させていただきます。
- ③24時間以内のインフルエンザ予防接種や海外から4週間以内の帰国。

3 献血のお願い

- ①空腹時の献血は体調不良を起こしやすいため、できましたら食事の摂取をお願いします。
- ②献血後の激しい運動やサウナは、危険ですのでお控えください。
- ③献血カードを持参していない方は、運転免許証等の本人確認できる証明書をご用意ください。

【献血ルーム受付時間】

青森献血ルーム	弘前献血ルームCoCoSA
■成分献血 / 9:15~11:50、13:45~16:20	■成分献血 / 9:30~11:50、13:45~16:20
■全血献血(400・200ml) / 9:15~12:45、13:45~17:00	■全血献血(400・200ml) / 9:30~12:30、13:45~17:00
■定休日 / 12月31日、1月1日、毎週火曜日(令和4年10月より)	■定休日 / 12月31日、1月1日

- 青森献血ルーム ☎ダイヤル0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 ☎ダイヤル0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>



献血に関するお問い合わせは、青森県赤十字血液センター 献血推進課まで ☎017-741-1512